

あの、軽い小さな壹円玉にまつわる逸話が多い。壹円に笑うものは、壹円に泣く一は旧人の訓え。君の顔は壹円玉だ(これ以上、崩し様が無い)は漫才のネタだ。落ちている壹円を拾う労力がもったいない...

歌もある。♪壹円玉よ 永遠なれ♪もあつたが♪一円玉の旅がらす♪が平成元年の「NHK みんなの歌」でヒット曲になった。♪～1 円玉の旅がらす 一人ぼっちでどこへ行く 明日は湯の町港町～♪。壹円玉を題材にした演歌。

この様に、壹円玉が注目を浴びたのは、この年に消費税が創設されたからである。3%だと10 円玉で7 円のお釣り、5 円玉で2 円のお釣りが必要になることが分かって、増刷を必要とした年である。

壹円玉は、大蔵省造幣局(現独立行政法人造幣局)で発行している。壹円玉が初めて発行された、初年の昭和30 年には7 億8,170 万枚。現在まで441 億円(枚)が発行されて、流通は388 億円(枚)となっている。

発行枚数は、年によって異なる。例えば、多い年の昭和47 年は12 億7,499 万枚、48 年14 億7 千万枚、49 年17 億5 千万枚、50 年16 億5,600 万枚。平成元年23 億6,697 万枚、2 年27 億6,998 万枚、3 年27 億6,898 万枚。

半世紀の年発行平均は10 億枚に及ばない。

ところが、昭和43 年には1 枚も発行されていない。そして、驚くことに平成21 年以来5 年間1 枚も発行されていなかった。

今年2 月3 日に広島造幣局で、5 年ぶりに発行されるという。

通貨が発行されないことに、異常さを感じるが、壹円玉は、電子マネーの発達などで需要が低迷していたのである。5 年ぶりに発行されるのは、元年と同様に今年の4 月から、消費税の増税があり、壹円玉が必要になるからと予想される。

日本の通貨壹円玉は、アルミニウム100%、重さ1g、直径20 ミリ、製造原価は2 円程度とされているが、現在では原料のアルミニウムの価格が値

上がりしているから、1 枚(円)に3 円くらいのコストがかかっているのではないかとされている。

昭和46 年頃、1 円玉の流通が悪くなった。流通が不足したのである。不足した理由として、近隣国で日本の1 円玉を隠したという噂が、実しやかに流れた。当時、壹円玉を作るのに1 円以上要するから、作れば、それだけマイナスになると計算された。現在では3 円も原価を要すると言われているから、更にマイナス率は高くなる。

理由は、この他にもあることを大蔵省は指摘した。壹円玉は(これ以上崩し様が無く)邪魔にされる通貨である。

壹円玉が♪明日は湯の町 港町♪を旅(流通)しないで、机の中や貯金箱に眠っているのではないかと推測された。

そこで大蔵省では、机の中や貯金箱に眠っている壹円玉を供出してくれと、試験的に省内職員に呼びかけた。

なんと1 週間で、予想通り机中や貯金箱に眠っていた20 万枚が集まった。

それから大蔵省は全国民に呼びかけた。買い物に使ってくれ、金融機関や職場で両替してくれと広報したら、いっぺんに解消した。

新たに大量発行することはなかった。流石に通貨の発行を担当している大蔵省の叡智と指導であった。

